

学習者主体の学びを実現するための ICT支援ツール「Ne！クスト」を活用した授業実践

県立特別支援学校流山高等学園教諭 **やまざき けい たろう 山崎 慶太郎**



1 はじめに

本校は、職業に関する専門学科を設置する高等部単独の特別支援学校である。学校教育目標は「自らの夢や希望に向かって、挑戦と創造を続ける生徒の育成」と掲げられており、本校のキャリア発達支援の理念を具現化したものである。令和3年度からは文部科学省から「研究開発学校」の指定を受け、生徒が自身の「よりよい未来」の実現に向けて、メタ認知を高めながら自らの学習の調整を行う、新領域「私の時間」（以下、「私の時間」）の研究開発を行っている。

本校は、学校教育目標の実現に向けて必要な資質・能力を育成できるよう、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を重視しながら、「私の時間」を基軸としてカリキュラム・マネジメントを行っている。その中で、生徒がメタ認知を高めながら、自分で目標を設定し、振り返りながら、責任をもって学習に取り組めるようにするため、独自のICT支援ツール「Ne！クスト」（以下、ネクスト）を開発し、運用してきた。本稿では、そのネクストの活用方法や、成果・課題を紹介する。

2 学習者主体の学びを実現するために

本校では、卒業生や卒業生が就労した企業への調査から、本校生徒の育成を目指す資質・能力を整理し、それに基づくループリック「自立へのステージアップ表」を作成した。生徒が自らループリックを活用できるように、平易な言葉の説明と、イラストを組み合わせた

独自教材「ステカ」という教材を学習に取り入れている。このステカは、「自己評価と他者評価の乖離」、「自分を俯瞰してみることが難しい実態」、「他者の意見を受け止める力が課題」といった、本校の教育課題を解決するための手立てとして作成されたものである。そのステカをより簡便にかつ効果的に活用できることをねらったのが、ICT支援ツールネクストである。

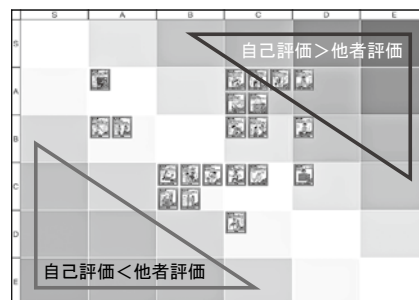
(1)自己分析・自己理解

ネクストではまず、E～Sの6段階に設定されている「ステカ」から、今の自分の到達度を選択していく。自己評価が終わった後は、「自己評価」「他者評価」「マトリクス（自己評価×他者評価）」の3



到達度自己評価の画面

つの表を活用し、自分の得意・苦手を分析していく。特に「マトリクス」は、自己評価と他者評価の隔たりが可視化できるようになっており、生徒が「他者から自分はどのように見られているのか」という「メタ認知」を高めるためのきっかけ・足場掛けとしている。他者評価については、あくまでも自己分



マトリクス表の画面

析を通して自己理解を深めるための指標の一つとして捉えるよう、生徒に説明している。

(2)目標設定

生徒はネクストを活用して自己分析を深めながら、学習の中でレベルアップを目指したい「ステカ」を自分で選んでいく。数は1～3項目とし、前期・後期のそれぞれ半期の目標として設定していく。この時に重視することが「なりたい自分」になるために必要な「ステカ」を選ぶことである。苦手な項目に取り組むことは前提とせず、自分の得意なところを伸ばしていくことも可としている。そうすることで、生徒が主体的に目標設定ができるようにしている。

(3) 作戦の検討

目標が決まったら、その目標を達成するための具体的な作戦をネクストの「目標設定シート」を使用して計画していく。作戦を設定するにあたっては、「どの授業のどんな学習活動の場であれば、目標達成に向けた学習ができるのか」や、「作戦は具体的且つ実現可能なものとなっているか（達成のためには長い時間が必要、お金がかかる等）」といった視点を重視している。

また作戦を立てるときは、必要に応じて友達や教師に相談し、作戦を修正したり、作戦

の選択肢を増やしたりできるようにしている。

(4)個別の指導計画・教育支援計画へ接続

目標と作戦が決まったら、生徒が担任と立てた目標と作戦を共有していく。そこでアドバイスを受けたり、必要に応じて修正したり

していく。担任が生徒の立てた目標を参考にし、支援が必要な部分について個別の指導計画や教育支援計画に繋げていけるように、作成スケジュールをデザインしている。

3 成果と課題

ネクストを活用し始めた当初、Excelマクロで動くプログラムとなっており、一連の学習は学校のパソコンを使って実施していた。しかしパソコンの台数に限りがあり、一斉に活動することの難しさや、教師による他者評価データの入力や、進級によるキャンパス移動の際のデータ移行の苦労があった。研究開発が進み、現在ネクストはWebシステム化され、データの整理と保管が簡便化した。また、タブレットでの運用が可能となり、ネット環境下であれば時間と場所を問わず活用できるようになった。

また、ネクストで作成した「目標設定シート」は、ポートフォリオとして蓄積することで、「キャリア・パスポート」としての役割も期待できる。

課題は、本校の生徒の実態に応じた機能の改善、他障害種や他校種への汎化を見据えた機能拡張である。実践を積み上げながら、改善策を検討していきたい。

4 今後に向けて

ICT支援ツール「ネクスト」は生徒自身が「学びの主体」となり、「自分の学びを自分で舵取り・調整する」ための支援ツールとして、一定の成果と可能性を示せていると考える。今後は特別支援学校のみならず、他校種で特別支援教育を受ける児童生徒に対しても積極的に活用してもらい、有用性を検証しながら改善を続けていきたいと考えている。

NO.		このとき 誰が	
このとき、誰が何をしていますか？		誰が何を、どのようにしていますか？	
何をして、何をしていますか？		【自分の役割】何をして、何をしていますか？	
専門教科が始まる前に準備期間			
このとき、誰が何をしていますか？  先生が話をしています。		誰を見て、チェックポイントと比較しながらセルフチェックを行うようにする。	
【確認・練習・振り返り・応用練習】			
このとき、誰が何をしていますか？  先生が話をしています。			
このとき、誰が何をしていますか？  先生が話をしています。			
【確認・練習・振り返り】			
このとき、誰が何をしていますか？  先生が話をしています。			
このとき、誰が何をしていますか？  先生が話をしています。			

目標設定シートの画面